

## 異文化間 コミュニケーション

小谷 尚美

皆さんは、Intercultural communication（異文化間コミュニケーション）という言葉に対してどう思いますか？語学を勉強する人にとって、これは大事な言葉ではないでしょうか。

私は小さな頃から人に出会うことが好きでした。なぜならば、人と会うことによって自分を発見でき、新しい世界が見えるからです。そして、私には今まで3回の短期留学経験があります。全ての宿泊先は、ホームステイで現地の人の生活に混じり、文化や英語を学びました。1回目はニュージーランドのオークランドにある語学学校へ、2回目はオーストラリアのブリスベンにあるセントピーターズ高校へ、そして一番心に残っているのが3回目に行った、オーストラリアにあるクウィーンズランド大学のエリコスと呼ばれる留学生のための語学学校です。

クウィーンズランド大学はとても有名な大学で、たくさんの建物と緑に囲まれたキャンパスはとても広く、大勢の学生がいます。私は初めてオーストラリアを訪れた時から、この大学で勉強してみたいと思っていたので、大学のキャンパスの中で勉強できることが幸せでした。

私がほぼ毎日利用していた図書館は、7階建てで、どこに何があるのかわからず初めは2階でインターネットを利用するだけでしたが、課題ができた時は、自習室を利用していました。その図書館にも本はありますが社会科学や人文学、その他の様々な学科の専門書は別の建物の中にあります。インターネットやパソコンを利用する学生が多く、いつもパソコン室は混み合っていました。私が英語の勉強のために利用した図書館は、エリコスの学生専用の図書館です。しかしそこには特別な用事があるか、許可を得ないかぎり、中に入って自分で本を探すことはできません。受付に行くと、自分はどのレベルでどんな本が欲しいのかなど、正確に伝えなければならず、少し大変でした。

授業では英語のスピーキング、リスニング、ライティング、ディベートや日常会話を学びました。授業科目の中で私が最も好きだったのはビジネスクラスでした。ビジネスクラスでは自分で何か製品を決めて、その製品を宣伝するビジネスマンになりきってプレゼンテーションをしたり、実際にスーパーへ行き、そこの経営者に話を聞きに行ったり、異文化間でビジネスをする時には何が必要かなど、とても実践的な事を学びました。

クラスメイトは色々な国から来ていました。そんな世界中の人が集まる教室で、私達は英語を共通語としてコミュニケーションをとりました。中にはビックリするような文化をもった国があり、私は彼らを理解することができず、異文化交流の難しさを知りました。自分の思っていることをどんどん言葉にしてぶつけてくる彼らに対し時には腹を立てることもありました。「日本人は自分の国のことさえ知らないし、意見をもっていない。恥ずかしくないの？もっと思っていることをどんどんいわなくっちゃ。」あるコロンビア人の友達が私に言いました。その言葉は私に大きなショックを与え、「このままじゃいけない。」と思い、自分の意見を言うように努力しました。時には私が彼らと反対の意見を言うこともありましたが、そんな時でも彼らは怒ること無く真剣に私の意見に耳を傾けてくれました。そんな彼らの姿を見て、自分の視野が狭かったことに気づくことができました。

文化が違えば考え方の違いも時にはあります。でもそんな時、あの国の人は理解できないと思わず、大きな視野を持ち、そんな考え方もあるのだと彼らの意見を受け入れ、理解することができなければ、他の国の言葉を話すことが出来ても異文化間コミュニケーションは成功しないということを感じました。

これまでの短期留学での人との出会いや経験が今の自分にとってもいい刺激を与えています。彼らに出会えたことに感謝し、さらに自分の向上を目指していけたらいいと思っています。

こたに なおみ（英米語学科2年次生）

